

1998年

10月10日(土)~  
11月29日(日)

第14回企画展

I.N.M.第1次総合調査報告  
—茨城の自然を見つめるI—

Nature of Mt. TSUKUBA and L. KASUMIGAURA

# 筑波山のブナは何をみてきたか

## 筑波山・霞ヶ浦の自然

### 記念行事

11.1(日)・15(日) 「ガマの油売り」口上実演  
及びそばうち実演試食会  
11.8(日) 自然講座「霞ヶ浦の生いたち」

### 開館時間及び休館日

開館時間 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 毎週月曜日(但し、11月23日(月)は開館、24日(火)は休館します。)

### 次回企画展のお知らせ

姉妹館締結記念  
ロサンゼルス郡立自然史博物館協力展  
「鯨」三次元のゆりかごのなかで...  
1999.1.9(土)~4.4(日)

### 入館料

大人 710円(570円)  
高・大学生 430円(290円)  
小・中学生 140円(70円)  
※( )内は20名以上の団体料金です。  
※この料金には、常設展・野外施設入  
場料が含まれております。  
※11月13日(金)は、入館無料となり  
ます。  
※第2、第4土曜日は、小・中・高校生  
は入館無料となります。



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

IBARAKI NATURE MUSEUM

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000  
ハローダイヤルいばらき 029-226-8600 #8886(フッシュ回線)  
ホームページアドレス <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>  
古紙配合率40%再生紙を使用しています。



# 筑波山のブナは何をみてきたか

## 筑波山・霞ヶ浦の自然

Nature of Mt.TSUKUBA and L.KASUMIGAURA



茨城の自然のシンボルである筑波山と霞ヶ浦(玉里村から望む)



ソウシチョウ(ヒタキ科)

鳴き声も姿も美しい中国原産の小鳥です。日本には飼鳥として導入されましたが、昭和50年代から筑波山で野生化し、今では主役になっています。



ナウマンゾウ化石(麻生町根小屋)

平成5年2月、茨城県自然博物館建設準備室が発掘した資料。第三大臼歯と下顎骨の化石です。



アサギマダラのさなぎ(マダラチョウ科)

筑波山にアサギマダラが多いことはよく知られていますが、その生態についてはまだまだよく知られていません。



キクザキイチグ(キンボウゲ科)  
早春を彩るキクザキイチグは、野生のアネモネの代表です。ふつうは白い花ですが、なぜか、筑波山では紅紫色で可憐です。

現在筑波山頂付近には、冷温帯に特徴的なブナ林が分布しています。これは、最終氷期が終了し冷温期が始まったおよそ1万1千年前頃に低地まで広がったものが、温暖期に入り山頂部に取り残されたものとされています。このブナ林が分布する筑波山の生いたちやブナ林の生育と同時期に進行した霞ヶ浦の成立過程、さらに現在生育する動物植物の様子を、平成6年度から平成8年度にかけて3年間取り組んできた茨城県自然博物館第1次総合調査の成果を基に紹介します。



**交通案内**  
●車利用の場合  
常磐自動車道谷和原I.C.から20分  
●鉄道・バス利用の場合  
JR柏駅で東武野田線乗り換え、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」又は「岩井西高行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分



カタクリ(ユリ科)

ブナがまだ葉を開かない早春にかがり火のような花を咲かせるカタクリは、まさに筑波山のシンボルです。



球状花コウ岩(八郷町峰寺)

円盤状にへこんでいるところが球状花コウ岩です。小判石とも呼ばれ、茨城県の天然記念物に指定されています。

### 展示内容

- ブナ林のはたらき
- ブナが出現する以前の大地の移り変わり(筑波山の生いたち)
- ブナ林が見てきたもの(霞ヶ浦の生いたち)
- ブナ林が見ているもの(筑波山・霞ヶ浦に特徴的な動植物、気象及び人々の生活とのかかわり)
- 筑波山、霞ヶ浦のこれから
- 総合調査研究の紹介



ナマズ(ナマズ科)

平たい大きな頭に小さな目、細長い4本のひげ。地震を予知するともいわれ、以前は霞ヶ浦や周辺の河川のどこでも見られました。